

外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/09/01

米FOMCが最大の焦点に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	利上げを巡る見方が交錯 予想レンジ: 118.000 ~ 127.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	原油安の影響を見極め 予想レンジ: 87.300~94.300円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



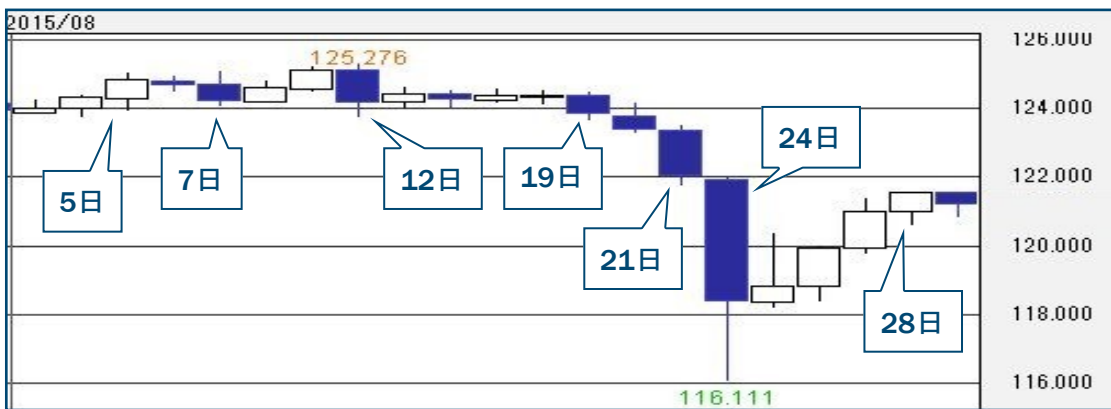
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 8月の推移

8月のドル/円相場は116.111円～125.276円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.2%の下落(ドル安・円高)となった。米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げを見据えてドルは堅調に推移していたが、11日の中国人民元切り下げをきっかけに、中国景気の先行きに不透明感が強まり市場のムードが悪化。世界的に株価が大きく下落した24日にはドル/円の下げ幅が一時6円近くに及んだ。その後、米4-6月期GDP・改定値の上方修正などもあって月末にかけては121円台まで値を戻しているが、世界的に株価の不安定な値動きが続く中、下落前の水準を回復するには至らなかった。



四本値	
OPEN	123.902
HIGH	125.276
LOW	116.111
CLOSE	121.230

5日	パウエルFRB理事が「9月に利上げするかどうかは決まっていない」「米経済は失業率が示すよりも多くのたるみがある」などと発言。また、米7月ADP全国雇用者数が18.5万人増と予想(21.5万人増)を下回ると一時124円を割り込んで下落した。しかし、米7月ISM非製造業景況指数が60.3と、予想(56.2)を大幅に上回り2005年8月以来の高水準となると一転してドル買いが活発化して125.015円まで反発した。
7日	米7月雇用統計は失業率が5.3%(予想5.3%)、非農業部門雇用者数が前月比21.5万人増(予想22.5万人増)、労働参加率が62.6%(予想62.6%)、平均時給の前月比が+0.2%(予想+0.2%)と、概ね予想通りの結果となった。堅調な雇用情勢を維持したとの見方から9月利上げ観測を絡めて一時125円台を回復した。ただ、買い一巡後は利益確定売りに押された他、NY原油が約5カ月ぶりに43ドル台に下落する中で、米10年債利回りが低下に転じたため124.108円まで反落した。
12日	中国人民銀行(PBOC)が2日連続で人民元相場の対ドル基準値を下げると125.276円の高値まで上伸した。しかし、PBOCが人民元の下落ペースを調整するためにドル売り・元買い介入を実施したと伝わると一転してドル売りが強まった。
19日	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で「メンバーは利上げには追加情報が必要との認識で一致」「数人が指標は物価上昇への確信をもたらしていないと表明」「数人が中国の経済減速は米経済見通しのリスクと指摘」などとして、9月利上げについて明確な示唆がなかった事からドル売りが強まると123.60円台に下落。なお、NY原油が約6年半ぶりに40ドル台まで下落した事で米長期金利の低下に拍車がかかった事もドルの重石となった。
21日	中国8月財新製造業PMI・速報が47.1と予想(48.2)を下回り2009年3月以来の低水準となった事を受けて、アジア・欧州・米国と世界的に株価が下落。市場の混乱を受けて米9月利上げ観測が後退する中、米長期金利が低下すると122円を割り込んでドル安が進んだ。
24日	中国景気への不安から上海株を筆頭にアジア株が総崩れとなり、続く欧州市場でも株安が進んだ。さらに、NY原油が下落する中、米10年債利回りが2%を割り込んで低下すると、ストップロスを断続的に巻き込んでドル売りが激化。NYダウ平均の寄り付き前に116.111円まで急落したが、1000ドル安で寄り付いたNYダウ平均が下げ幅を縮小すると119円台へと急速に切り返した。
28日	フィッシャーFRB副議長が「インフレ率上昇への確信はかなり高い」「9月に利上げを実施するかどうかをまだ決定しておらず、今後数週間、経済指標や市場動向を見極めていく」と発言。9月利上げの可能性が排除できないとの見方から、ドル買いが強まると121.543円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.6705%
HIGH	0.7562%
LOW	0.5354%
CLOSE	0.7375%

米10年債利回

OPEN	2.1962%
HIGH	2.2916%
LOW	1.9015%
CLOSE	2.2179%

日経平均

OPEN	20540.21
HIGH	20946.93
LOW	17714.30
CLOSE	18890.48

NYダウ平均

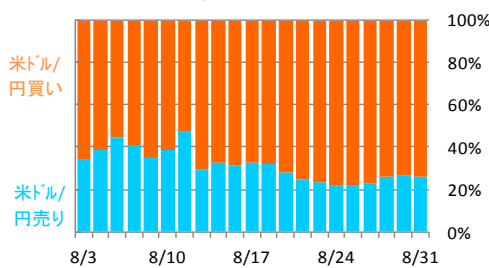
OPEN	17696.74
HIGH	17704.76
LOW	15370.33
CLOSE	16528.03

8月のポジション動向

9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

米ドル/円ポジション指数



- ・8月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・8月米ADP全国雇用者数(2日)
- ・7月米貿易収支(3日)
- ・8月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・8月米雇用統計(4日)
- ・4-6月期日本GDP・二次速報(8日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・8月米小売売上高(15日)
- ・8月米鉱工業生産(15日)
- ・8月米消費者物価指数(16日)
- ・8月日本通関ベース貿易収支(17日)
- ・8月米住宅着工件数(17日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・8月米耐久財受注(24日)
- ・4-6月期米GDP・確報値(25日)
- ・8月日本消費者物価指数(25日)

9月の見通し

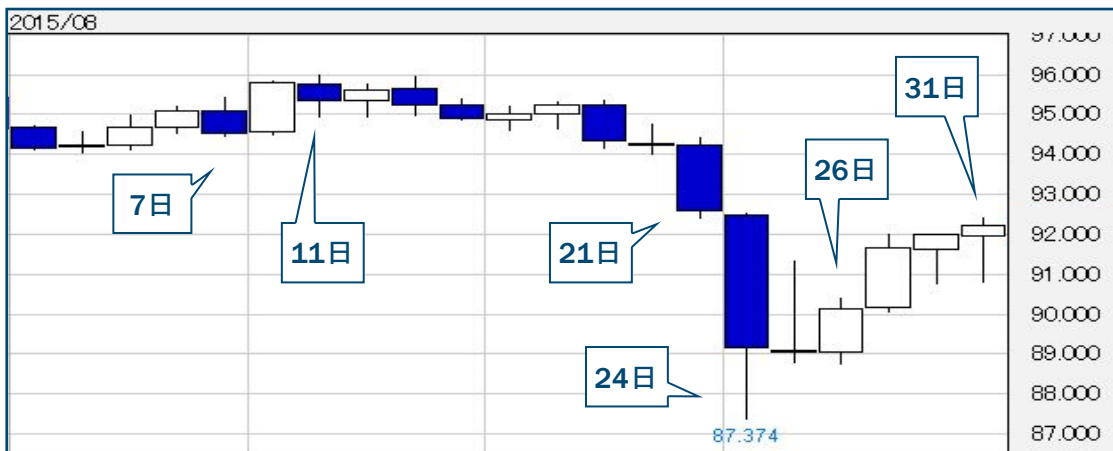
8月に発表された米経済指標は、7月ISM非製造業や7月雇用統計以外にも、7月小売売上高、7月住宅着工件数、7月耐久財受注などが好調で9月利上げ期待が維持された半面、中国発の市場混乱によって利上げは来年以降に先送りされるとの見方も浮上するなど、利上げ開始時期に関する市場の見方が交錯。これがドル/円の振幅が大きくなった原因であり、こうした流れは少なくとも16-17日のFOMCまで続く公算が大きい。

フィッシャー米FRB副議長は8月28日のテレビインタビューで、利上げについて「次の2週間に出るデータを考慮する」と発言しており、その中でも米8月雇用統計(4日)が最大の焦点である事に疑いの余地はない。もし、世界的に株価が戻り歩調を強める中で米8月雇用統計が好結果を叩き出せば、9月利上げ期待の高まりとともにドル/円が年初来高値(125.853円)を更新する事も考えられる。もっとも、これはあくまでも可能性上の話であり、実現への道は相応に険しいと言わざるを得ない。足元の市場の混乱を考慮すると「そこそこ」の雇用統計では利上げ期待を高めるまでには至らないだろう。今年これまでに発表された米雇用統計を振り返っても、全ての項目が完璧という月は見当たらない。FOMC直前まで利上げに関する市場の見方が定まらなるとすれば、FOMCとしても市場に無用なボラティリティを供給してまで利上げに踏み切る事は難しいと見るべきだろう。もっとも、9月のFOMCで利上げを見送ったとしても年内の利上げ期待は維持される公算が大きく、場合によっては10月FOMCでの利上げ期待が高まり、むしろドル高が進む事も考えられる。ただし、いずれのシナリオを辿るかについては、不透明な点も多く、现阶段で先行きを見通すのは困難だ。FOMCで示される金融政策の方向性を確認した上で、今後の予測に繋げたいと考えている。(神田)

カナダ/円 8月の推移

8月のカナダ/円相場は87.374～95.998円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.6%の下落(カナダドル安・円高)となった。

月を通して原油相場の影響を受ける場面が多く見られた。需給環境の悪化や、中国経済の減速懸念などを背景に原油相場が軟調に推移する中、カナダ/円は上値の重い展開が続いた。24日に原油安が進行すると共にカナダドル安が進行し、2013年1月以来となる87.374円の安値を記録した。ただ、原油相場が37ドル台で下げ渋った事などから反発。31日に石油輸出国機構(OPEC)が最近の原油価格急落に懸念を示した事で原油価格が49ドル台まで急騰すると、92円台まで値を戻して月の取引を終えた。



四本値	
OPEN	94.683
HIGH	95.998
LOW	87.374
CLOSE	92.244

7日	加7月雇用統計は、失業率6.8%、雇用ネット変化者数0.66万人増とほぼ市場予想(6.8%、0.50万人増)通り。同時刻に発表された米7月雇用統計を受けて米ドル買いが優勢となり、米ドル/カナダドル相場ではカナダドルが売られると、カナダ/円は発表直後に付けた高値95.441円から94.466円まで下落した。
11日	中国人民銀行(PBOC)が、人民元の対ドル相場の基準値切り下げを実施。実質的な元の切り下げを受けてドルが全面高となり、米ドル/カナダドルが上昇(=カナダドル安)するカナダ/円は下落。その後、OPECが2015年の非加盟国の原油供給予想を引き上げた事などからNY原油が一時42ドル台まで下落する中、94.964円まで一段安となった。
21日	中国8月財新製造業PMI・速報が2009年3月以来の低水準となった事に反応してアジア株安が進行すると、カナダ/円は下落。その後もリスク回避の動きは止まらず、欧米市場でも株安が進行すると、92.435円まで一段安となった。なお、加6月小売売上高は前月比+0.6%、自動車を除いた数値は同+0.8%と、それぞれ予想(+0.2%、+0.5%)を上回ったが、リスク回避の動きが強い中ではカナダドル買いの反応は一時的となった。
24日	本邦や中国を始め、欧米でも株価の下落が止まらず、原油相場が37ドル台に続落するなど、リスク回避ムードの中でカナダ/円は2013年1月以来となる安値87.374円を記録。ただ、その後はドル/円相場でショートカバーが入った事や、原油相場が下げ渋った事から、下げ幅を縮小した。
28日	米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが発表したリグ(石油掘削設備)稼働数の増加ペースの下落により、原油相場が一時46ドル付近まで上昇。これを受け、カナダ/円はNY市場引けにかけて92.015円まで上昇した。
31日	原油相場が一時43ドル台まで弱含んだ事から、カナダ/円は一時90.838円まで下落。しかしその後、OPECが「原油生産量のさらなる増加と市場における『投機』の動きによって、原油価格が低下圧力にさらされ続けている事を懸念」との見解を示した事などから原油相場が49ドル台まで急騰すると、92.413円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.434%
HIGH	1.497%
LOW	1.195%
CLOSE	1.493%

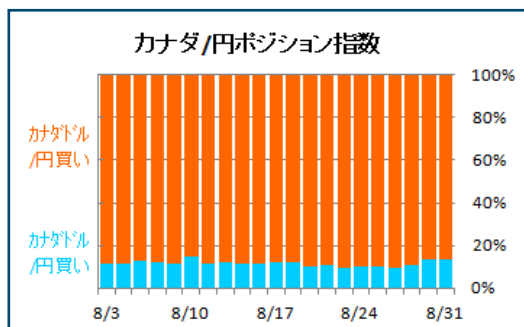
N Y 原油

OPEN	46.86
HIGH	49.33
LOW	37.75
CLOSE	49.20

NYダウ平均

OPEN	17696.74
HIGH	17704.76
LOW	15370.33
CLOSE	16528.03

8月のポジション動向



9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・6月、4-6月期加GDP(1日)
- ・8月米消費者物価指数(16日)
- ・8月加雇用統計(4日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・8月米雇用統計(4日)
- ・8月日本通関ベース貿易収支(17日)
- ・7月日本経常収支/貿易収支(8日)
- ・8月加消費者物価指数(18日)
- ・8月中国貿易収支(8日)
- ・9月中国財新製造業PMI・速報(23日)
- ・加中銀政策金利発表(9日)
- ・7月加小売売上高(23日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・7月加GDP(30日)
- ・8月米小売売上高(15日)
- ・原油相場、主要国株価

9月の見通し

9月のカナダ/円相場は、原油安が加経済に与える影響に注目したい。まず、1日の4-6月期GDPについて、市場では前期に続きマイナス成長が見込まれており、リセッション入りが濃厚となっている。4日の加8月雇用統計と合わせ、予想より弱い結果となれば、9日の加中銀(BOC)金融政策発表での追加利下げの思惑が浮上してカナダ/円相場に売り圧力が掛かる可能性がある。

また、カナダと米国の金融政策スタンスが正反対である事も、カナダドル相場の重石となろう。米9月利上げ開始観測を強める材料が出ると、米ドル/カナダドル相場を通じてカナダ/円相場に影響を与える事が予想される。米連邦公開市場委員会(FOMC、16-17日)は当然として、米国の8月の雇用統計(4日)や小売売上高(15日)、消費者物価指数(16日)にも注目したい。

原油相場について、37ドル台で底入れした可能性があるものの、直近高値(今年5月に付けた62.58ドル)を越えられないと反発局面入りの感触は得られにくいと考えられる。原油相場は引き続き反落に警戒が必要だろう。もし先月安値(37.75ドル)を更新すると2008年12月に付けた直近安値(32.40ドル)まで下値余地が拡大するため、カナダ/円相場にとって重石となりそうだ。

(川畑)

(予想レンジ: 87.300~94.300円)